



米

令和元年産 米集荷結果 について



農業経営支援課
石川 顕史

令和元年は、6〜7月の長雨、9月の曇天や刈取り間際の台風襲来など異常気象に悩まされた年となりました。それに伴い、米の一等米比率も例年に比べ低くなりました。

《集荷量》

1336㌦ (前年対比120%)

《一等米比率》

○コシヒカリ(早生)

49% (30年49%・29年64%)

○きぬむすめ(中生)

86% (30年90%・29年89%)

○あいちのかおり(晩生)

67% (30年50%・29年79%)

○全体

63% (30年57%・29年74%)

※JAおおいがわの集荷数量の内、コシヒカリが28%・きぬむすめが18%・あいちのかおりが32%を占めています。

《等級落ち理由トップ3》

1位…心白粒・白未熟粒

37%

2位…カメムシによる着色粒

29%

3位…胴割粒

13%

《発生要因》

○心白粒・白未熟粒

地力および日照不足による生育後半の栄養不足、出穂期の高温、早刈り、倒伏等

○カメムシによる着色粒

農道・空き地・畦畔等の雑草、薬剤防除の不徹底、水田内のヒエ・ホタルイガカメムシを誘引

○胴割粒

刈取り前の早期落水、刈遅れ、乾燥機による急激乾燥および過乾燥

《今後の異常気象対策》

対策① 品種の選定

過去の検査結果を見てもきぬむすめがとても品質安定に優れていることがわかりま

す。現在JAおおいがわでは、より良い品種を求め新品種の試験栽培を行っています。

対策② 高温・曇天に負けない土作り

水稲には「けい酸」がとても大切ですが、けい酸を補給するために土壌改良材を必ず入れましょう。他にも腐食や堆肥の使用もおすすめです。 **ちっ素・リン酸・カリ以外の微量要素も取り入れて、地力を上げましょう。**

対策③ 水管理の徹底

水稲は、生育時期によって水管理が違います。稲にとって「水が必要な時に入れ、いらないときには切る」当たり前のことですが、地域性もあり難しいことでもあります。地元の方と協力し、徹底した水管理を行いましょう。

今後も令和元年産のように異常気象が起る可能性があります。以上の事に気を付けて、おいしいお米を作りましょう。